

第一三五回

川崎市定期能



能「融」観世 恭秀
(撮影:前島吉裕)



能「井筒」観世 芳伸
(撮影:前島吉裕)

能

融
【しんじゆ】
観世 恭秀
(観世流)

狂言

文 荷
【ふにない】
野村 万蔵
(和泉流)

第二部

15時30分開場
16時00分開演

能

井 筒
【つつものき】
観世 芳伸
(観世流)

狂言

鬼 瓦
【おにがわら】
野村 万蔵
(和泉流)

第一部

12時30分開場
13時00分開演

2022年3月12日(土) 会場:川崎能楽堂

入場料(全席指定):各部 正面席 4,500円、脇正面・中正面席 4,000円

U25 3,000円 ※脇正面・中正面エリアのみ選択可。25歳以下の方。購入時に生年月日のわかる身分証明書をお持ちください。

■チケット発売 2022年2月7日(月)10:00より発売(先着順)
*全ての販売方法において座席選択が可能です。*取扱い座席は全て共通です。

■販売方法

電話申込

- ①川崎能楽堂 TEL.044-222-7995(10:00~17:00、水曜定休日)
- ②カンフェティ TEL.0120-240-540(平日10:00~18:00)
- *①・②共にセブンイレブンでの支払・引取になります。
- *①・②共にサービス利用料(¥110/枚)、発券手数料(¥220/枚)が掛かります。

インターネット申込

カンフェティ http://confetti-web.com/kbz_noh125
*事前会員登録が必要です(登録無料)。
*クレジット決済・セブンイレブン支払が選択でき、引取はセブンイレブンになります。
*サービス利用料(¥110/枚)、発券手数料(¥220/枚)が掛かります。

窓口申込
※2月8日から

川崎能楽堂 川崎市川崎区日進町1-37(10:00~17:00、水曜定休日)
*残数があれば2月8日(火)10:00より販売いたします。*支払いは現金のみになります。



カンフェティ



川崎市文化財団

主催 公益財団法人 川崎市文化財団 〒212-8554 川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー5階 TEL.044-272-7366 FAX.044-544-9647

後援 「音楽のまち・かわさき」推進協議会

*開演後にはご入場いただけない場合がございます。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、日時・内容・出演者等変更になる場合がございますので予めご了承ください。
*新型コロナウイルス感染症対策へのご協力をお願いいたします(詳細は川崎市文化財団ホームページをご確認ください)。



定期能をより楽しむための 事前講座

- ◆日時:2022年3月5日(土)13:00~14:30 ◆会場:川崎能楽堂
- ◆講師:田邊哲久(観世流・シテ方)、岡本房雄(観世流・シテ方)
- ◆定員:148名(先着順) ◆料金:無料

*第125回川崎市定期能チケットご購入者が対象となります。
*受講をご希望の方はチケットご購入の際にお申し出いただくか申込フォームよりお申込ください。



事前講座申込フォーム

狂言 鬼瓦

シテ大名 野村 万蔵
アド太郎冠者 野村万之丞

能 井筒
観世 芳仲
後シテ紀有常の娘の霊
物着

則久 英志
大鼓 柿原 弘和
小鼓 鶴澤洋太郎
笛 小野寺竜一

後見 津田 和忠
寺井 榮
地謡 木原 康太 岡本 房雄
高梨 万里 武田 尚浩
佐川 勝貴 関根 知孝
北浪 貴裕 大松 洋一

狂言 鬼瓦【おにがわら】

長く在京し無事訴訟をすませて帰国することになった大名(シテ)が、太郎冠者(アド)を連れて日頃信仰する因幡薬師へお礼とお別れに参詣します。礼拝の後、この薬師を国もとへ勧請しようと御堂の造作を見て回っていると、鬼瓦が目にとまり…。

能 井筒【いづつものぎ】

物着

旅の僧(ワキ)が、奈良から初瀬へ行く途中、在原寺に立ち寄り、業平と妻の紀有常の娘を弔っていると、一人の里女(前シテ)が現れ、井戸の水を汲んで古塚に手向けています。僧が不思議に思っで尋ねると、女が業平の墓であると教えるので、業平ゆかりの者かとただと、女は否定をしつつも次のような事を語ります。業平は紀有常の娘と契りながらも、一時、高安の里の女の許に通っていたが、自分の身を案じてくれる妻の心にうたれて、元に戻った話や、幼い頃、この井筒のそばで二人遊びたわむれたが、幼なじみの親しさが恋になり、歌を詠みかわし夫婦になった話などをします。そして、自分こそ井筒の女と呼ばれた有常の娘だと名乗って、井筒の陰に姿を消します。僧は、回向をして、仮寝すると井筒の女の霊(後シテ)が、業平の形見の衣裳をつけて現れ、舞を舞い、業平の面影をなつかしみますが、やがて夜明けとともにその姿は消え、僧の夢も覚めます。

狂言 文荷

シテ太郎冠者 野村 万蔵
アド主 石井 康太

能 融
観世 恭秀
後シテ汐汲みの老人
後シテ源融の霊

殿田 謙吉
大鼓 柿原 弘和 太鼓 徳田 宗久
小鼓 鶴澤洋太郎 笛 小野寺竜一

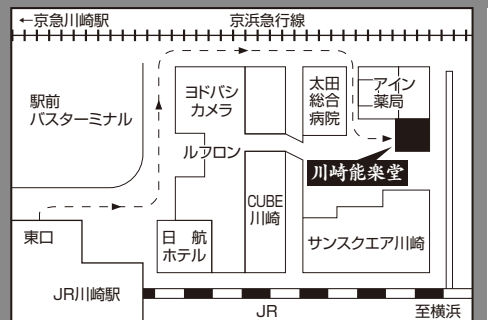
後見 大松 洋一
寺井 榮
地謡 木原 康太 田邊 哲久
武田 崇史 津田 和忠
高梨 万里 武田 尚浩
佐川 勝貴 木原 康之

狂言 文荷【ふみにない】

主人(アド)の恋文を届けに行くことになった太郎冠者(シテ)と次郎冠者(アド)は、その道中にお互いに手紙を押し付け合います。結局竹竿に結び付けて二人で荷うことにしますが、なぜだか段々重くなっていく気がするので、能「恋重荷」の一節を謡って気を紛らわせます。
しかし文はますます重くなり、二人は何が書いてあるのか気になって文を開封し読んでみると、「さてもさても恋しや恋しや」などであるので、こんなに小石が沢山では重いはずだなどと笑い、奪い合って読むうちに文を引き裂いてしまいます。そこへ主人がやってきて…。

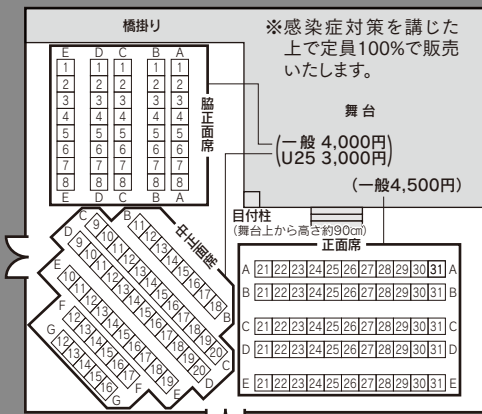
能 融【とおる】

秋の名月の日。都に上って来た旅の僧(ワキ)が、六条河原院まで来て休んでいると、汐汲みの田子を背負った老人(前シテ)が現れます。僧が、海辺でもないのに汐汲みとはおかしいのではないかと言うと、この河原院はかつて源融公が、千賀の景色をそのまま都に移して作って住んだところだと老人は答えます。そして老人は、融は毎日難波の浦から潮を汲ませて、院の庭で塩を焼かせて風流な楽しみとしていたが、後を継ぐ人もなく、この河原院は荒れ果ててしまったことを物語ります。そして都の山々の名所を教えて、水を汲む様子を見せた後、姿を消してしまいます。(中入)六条辺の者(アイ)から、融大臣のこや塩焼きの様子を聞いた僧は、先ほどの老人の話をする、それは融公の霊の化身であろうから甲いをするよう勧められます。その夜、僧が眠りにつく、在りし日の姿で融の亡霊(後シテ)が現れ、名月の下で舞を舞い、夜明けとともに再び月の都へ消え去りました。



JR川崎駅東口より徒歩5分
■アクセス(JR川崎駅まで)品川駅より約9分 横浜駅より約8分
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。
川崎能楽堂(9:00~17:00※水曜定休日)
〒210-0024 川崎市川崎区日進町1-37
TEL.044-222-7995 FAX.044-222-1995

川崎能楽堂座席表(148席)



※U25券は臨正面席・中正面席のみ選択可。
※C列、E列は前の列より一段高くなっています。

次回公演のお知らせ

人間国宝の競演
~友枝昭世と山本東次郎の至芸~
開催日:2022年5月3日(火・祝)
会場:川崎市麻生市民館大ホール
(小田急線新百合ヶ丘駅北口徒歩3分)
演目:解説 馬場あき子
能「隅田川」友枝昭世
狂言「麻生」山本東次郎

第47回川崎大師薪能
開催日:2022年5月24日(火)17時半開演
会場:大本山川崎大師平間寺 特設舞台
(雨天時:信徒会館)

第126回川崎市定期能 ~喜多流~
開催日:2022年8月上旬予定

※都合により日時、内容、出演者等変更になる場合がございますので予めご了承ください。